JA板野郡 コシヒカリ・キヌヒカリ・あきさかり栽培管理暦

2023年度

徳島県農業技術普及連絡協議会

◎農薬の使用については安全使用基準を守りましょう。◎生産履歴を正しく記帳して消費者に安心を届けましょう。

◎被膜殻を圃場外に流出させないようにしましょう。◎農薬の散布に当たってはドリフトに注意しましょう。

奨励品種の特性

4月25日植

品種名	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本／㎡	葉いもち	首いもち	紋枯	倒伏	品質	穂発芽
コシヒカリ	7.11	8.16	87	18.8	405	弱	弱～中	中	弱	上の中	難
キヌヒカリ	7.13	8.17	77	18	350	弱	弱～中	中	やや強	上の下	やや易
あきさかり	7.17	8.24	70	17.8	454	弱	弱～中	中	やや強	上の中	やや難

品種特性及び栽培の要点

○コシヒカリ
1. 早植にして、作柄の安定を図る。
2. 基肥を減量し、幼穂形成期には葉色を笹色に落す。
3. 中干しを徹底し倒伏を防止する。
4. 穂肥は、出穂15日前頃に施用する。

○キヌヒカリ
1. 耐倒伏性に富む安定品種。
2. 基肥はコシヒカリより3割ほど増量する。
3. 中干しをして、稲体の健全化に努める。
4. 穂肥は、出穂23日前頃に施用する。

○あきさかり
1. 多収性で品質・食味に優れる。
2. 分げつが多いので、株間を広く取り、紋枯病を予防する。
3. 分げつ数が約20本/株になれば中干しをする。
4. 高温による白未熟粒が少ないが、5月中旬以降に田植えし、出穂期以降の高温を避ける。

育苗（稚苗）

10a当り

- **準備**　種籾　約3kg
  粒状培土3袋（60kg）又は山土80ℓ
  （覆土には粒状培土を使用
  15枚/20kg）
  苗箱　20箱
- **選種**　塩水選……うるち1.13（水10ℓに硫安2.7kg）
- **種子消毒**　浸漬処理、もしくは塗沫処理で行う。
  消毒液は適正に処理すること。
- **浸種・催芽**　鳩胸状態に催芽する。
- **は種**（1箱当り）
  - タチガレエースM液剤(1,000倍希釈液)またはナエファインフロアブル(2,000倍希釈液)を1箱当り1ℓ潅水する。
  - **催芽籾：160～180g**
  - こめパワーマットを使用する場合はたっぷり潅水(2ℓ以上:消毒液を含む)する。

● 1箱当り施肥例(山土利用の場合)

例	肥料名	施肥量
Ⅰ	くみあい育苗肥料	20g
Ⅱ	キッポ青	10mℓ
Ⅲ	ポット肥料	5g

- **浸漬処理**　浸漬処理は24時間する。

乾燥種籾	テクリードCフロアブル	スミチオン乳剤	水
3kg	50mℓ	10mℓ	10ℓ

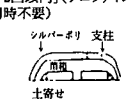
- **塗沫処理**
  必要な薬液を準備し希釈する。ミキサー等に種子を入れる。種籾全体に行き渡るように所定量の薬液を徐々に加える。薬液が種籾に均一に付着するようにミキサーを撹拌する。

乾燥種籾	テクリードCフロアブル	スミチオン乳剤	水
10kg	40mℓ	3mℓ	257mℓ
20kg	80mℓ	6mℓ	514mℓ
60kg	240mℓ	18mℓ	1,542mℓ

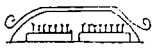
※浸漬、塗沫処理とも残液は環境に配慮し河川、用水等に流出しないよう充分に注意する。

育苗の注意事項

出芽期
育苗に当たっては健苗育成に努める。
(1)育苗はビニールハウスやトンネル等を利用して保温に努める。保温30～32℃
(2)出芽後に朝1回たっぷり潅水。
(3)出芽後ダコニール1000の1000倍液を1箱当り500mℓ散布する。[は種時～緑化期(但し、は種14日後まで)／2回以内](ナエファイン使用時不要)

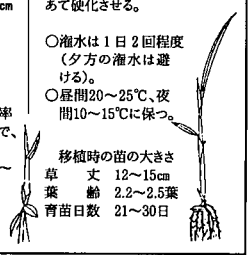


緑化期
草丈……4cm
○シルバーポリ#100(遮光率100%)の場合は、草丈4cmで、すそを徐々にすかす。



○シルバーポリ#90(遮光率90%)の場合は、草丈7cmで、すそを徐々にすかす。
○昼間25～30℃、夜間15～20℃に保つ。
※緑化後期は寒冷紗にて被覆する。

硬化期
草丈……7cm
シルバーポリを除き、充分光線にあて硬化させる。
○潅水は1日2回程度(夕方の潅水は避ける)。
○昼間20～25℃、夜間10～15℃に保つ。



移植時の苗の大きさ
草丈　12～15cm
葉齢　2.2～2.5葉
育苗日数　21～30日

生育ステージ

※苗質・天候・施肥・水管理等により前後します。

コシヒカリ 播種期	田植期	中干し	幼穂形成期	穂肥時期	出穂期	収穫期	キヌヒカリ 中干し	幼穂形成期	穂肥時期	出穂期	収穫期	あきさかり 中干し	幼穂形成期	穂肥時期	出穂期	収穫期
3/15	4/15	6/ 2～6/ 7	6/17	6/25	7/10	8/15	6/ 2～6/ 7	6/17	6/18	7/10	8/15	——	——	——	——	——
3/21	4/20	6/ 5～6/10	6/19	6/27	7/12	8/17	6/ 5～6/10	6/19	6/20	7/12	8/17	5/29～6/ 3	6/21	6/24	7/16	8/23
3/26	4/25	6/ 8～6/13	6/21	6/29	7/14	8/19	6/ 8～6/13	6/21	6/22	7/14	8/19	6/ 1～6/ 6	6/23	6/26	7/18	8/26
4/ 3	5/ 1	6/11～6/16	6/24	7/ 2	7/17	8/21	6/11～6/16	6/24	6/25	7/17	8/21	6/ 6～6/12	6/26	6/29	7/21	8/29
4/10	5/ 5	6/14～6/19	6/27	7/ 5	7/20	8/24	6/14～6/19	6/27	6/28	7/20	8/24	6/ 9～6/14	6/28	7/ 1	7/23	8/30
4/15	5/10	6/16～6/21	6/29	7/ 7	7/22	8/26	6/16～6/21	6/29	6/30	7/22	8/26	6/13～6/19	6/30	7/ 3	7/25	9/ 2
4/28	5/20	6/23～6/28	7/ 5	7/13	7/28	9/ 2	6/23～6/28	7/ 5	7/ 6	7/28	9/ 2	6/21～6/27	7/ 6	7/ 9	7/31	9/ 8
5/11	6/ 1	7/ 1～7/ 6	7/13	7/21	8/ 5	9/ 9	7/ 1～7/ 6	7/13	7/14	8/ 5	9/ 9	7/ 1～7/ 7	7/14	7/17	8/ 8	9/14
5/21	6/10	7/ 7～7/12	7/19	7/27	8/11	9/16	7/ 7～7/12	7/19	7/20	8/11	9/16	7/ 9～7/15	7/18	7/21	8/12	9/20

水管理

生育ステージ(田植時期)に併せて適切に水管理する。
例：4月25日植え(コシヒカリ)

※除草剤散布時は深水

浅水 → 浅水・間断潅水 → 中干し → 間断潅水 → 走り水

月別	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月

栽培のポイント

- 種子消毒は必ず実施
- うすまきにして充実した苗をつくる
- 土づくり資材の施用
- 基肥施用
- 箱処理剤を散布する
- 露出しない掛水管理に注意する
  除草剤の効果を高める為、田面がとし早期に防除を行う
  ○ジャンボタニシ発生田では浅水管理
  (植付深さ3センチ程度)
  ○一株当り植付本数は3～5本
  ○天候の良い日に田植する
- 2回目の防除を行う
  ○ジャンボタニシの多発田では
- 一度水を切るガス発生田(下葉の黄化)では
  たら、中干しを徹底し稲体を健全にする
  目標茎数の80%位(約20本／株)が確保でき
- ○出穂35日前にPK化成を施用する
- ○穂肥施用時期
- 除草を徹底（カメムシ対策）
  出穂14日前までに畦畔雑草の
- ヨコバイ類の防除をする
  出穂直前にいもち病・ウンカ・
- 防除を行う
  斑点米防止の為、カメムシ類の
  (籾が85%以上黄化した時期)
  ○刈り遅れがないようにする
  ○落水は出来る限り遅らす
- 穂わらの分解を促進する
  ○収穫後は速やかにすき込み、

病害虫防除

防除時期

病害虫	防除時期
苗立枯病・苗いもち・馬鹿苗病	
葉いもち	
紋枯病	
紋枯病・穂いもち	
イネミズゾウムシ・イネゾウムシ	
コブノメイガ	
ジャンボタニシ	
ウンカ・ヨコバイ	
カメムシ	

基幹防除　補完防除

基幹防除

○箱処理剤
- エバーゴルフォルテ箱粒剤　50g/箱(は種時〔覆土前〕～移植当日)
  (いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類)
- エバーゴルプラス箱粒剤　50g/箱(は種時〔覆土前〕～移植当日)
  (いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイ、コブノメイガ、ウンカ類)
- ビルダープリンスグレータム粒剤　50g/箱(緑化期～移植当日)
  (いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、ウンカ類)
- ビルダースタークル箱粒剤　50g/箱(緑化期～移植当日)
  (いもち病、イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類)
- スクラム箱粒剤　50g/箱(は種時〔覆土前〕～移植当日)
  (いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイ、コブノメイガ、ウンカ類)
- デジタルミネクト粒剤　50g/箱(移植10日前～移植当日)
  (いもち病、イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイ、イナゴ類)
- アドマイヤーCR箱粒剤　50g/箱(は種時〔覆土前〕～移植当日)
  (イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類)

本田処理剤

(カメムシ)　※スタークル剤及びアルバリン剤合計3回以内
スタークル粒剤　3kg/10a　収穫7日前迄・※3回以内
使用適期：出穂7～10日後に湛水散布。
スタークル豆つぶ　250g/10a　収穫7日前迄・※3回以内
使用適期：出穂7～10日後に散布。
スタークル・アルバリン顆粒水溶剤　2,000倍　収穫7日前迄・※3回以内
使用適期：穂揃期に1回目、10日後に2回目の散布。

(いもち病) コラトップ粒剤5
発生前～発生初期・出穂30日前～5日前迄・3～4kg/10a　2回以内
(いもち病) ブラシンフロアブル 1,000倍 (10a当たり散布液量60～150L)
発生初期・収穫7日前迄・2回以内(散布)
(いもち病・紋枯病・ウンカ類・カメムシ類・ツマグロヨコバイ) ゴウケツモンスター粒剤
出穂14～10日前・収穫45日前迄・3kg/10a・※1回

補完防除

農薬名	使用量	使用時期	使用回数	イネミズゾウムシ	コブノメイガ	イネツトムシ	ヨコバイ類	ウンカ類	その他
スクミノン粒	1～4kg/10a	収穫60日前まで	2回以内	※移植直後～約2週間前後の防除が必要となります。 ※殺貝効果を有する。					ジャンボタニシ
ジャンボたにしくん	1～2kg/10a	収穫60日前まで							
トレボン粒剤	2kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	○					
バダン粒剤4	3～4kg/10a	収穫30日前まで	6回以内		○	○			
バダンバッサ粒剤	4kg/10a	収穫30日前まで	5回以内		○	○	○	○	

※カメムシ対策
スタークル粒剤・スタークル豆つぶは、穂が出揃った時期の散布が効果的。
散布時の水深は、スタークル粒剤が3cm、スタークル豆つぶが3～5cmとする。

※いもち病対策
発生が見られた際はカスミン液剤・ブラシンフロアブルを速やかに散布する。

農薬の安全使用にあたっては今まで以上の注意を！
①農薬の飛散（ドリフト）
隣の田畑に飛散しないよう注意する。
②散布器具等の洗浄ミス
使い終った散布器具はよく洗い、また薬剤のついた衣服や手袋を出荷作業には使用しない。
③うっかりミス
使用時期、濃度、回数、使用方法等間違えないようにする。

雑草防除（10a当り）

レンコン近接田

- ワンオール粒剤　3kg
  散布適期：(田植直後～3日)
- ユニハーブフロアブル　500mℓ
  散布適期：(田植直後～5日)
- ナイスショットジャンボ　50g×10コ
  散布適期：(田植後3～10日)

一般水田

初・中期除草剤（散布後7日間は落水しない）

	(散布適期)		
・エンペラー1キロ粒剤	田植同時処理可～10日		1kg
・エンペラーフロアブル	田植直後	～8日	500mℓ
・エンペラージャンボ	田植後	3～8日	25g×10コ
・エーワンジャンボ	田植後	5～10日	30g×10コ
・ゴウワンDLジャンボ	田植後	3～8日	70g×10コ
・ジェイフレンドジャンボ	田植後	5～10日	40g×10コ

中期除草剤

(ノビエ対策)
・クリンチャージャンボ　50g×20コ　田植後　7日～ノビエ4葉期・収穫30日前迄・2回以内
(オモダカ・ホタルイ・クログワイ対策)
・バサグラン粒剤　3～4kg　田植後　15～55日・**収穫60日前迄**・1回(落水散布)
(オモダカ・ホタルイ・クログワイ・コウキヤガラ対策)
・レブラスジャンボ　40g×10コ　田植後　14日～ノビエ4葉期・収穫60日前迄・1回(湛水散布)
(ノビエ・オモダカ・クログワイ・コウキヤガラ対策)
・アトトリ豆つぶ　250g　田植後　14日(稲5葉期以降)～収穫45日前迄・1回(湛水散布)
(藻類・アオサ等対策)
・モゲトン粒剤　2～3kg　収穫45日前迄・3回以内

施肥基準（10a当り）

基肥超一発（土づくり＋基肥一発）　JA板野郡超一発　稲ひろし(16－10－12－ケイ酸11)　（コシヒカリ・キヌヒカリ）普通田　40～60kg・野菜跡　0～30kg

基肥超一発・基肥一発は側条施肥にも適合

土づくり
- ①田んぼの力〈15kg袋〉45kg
- ②阿波のとれ次郎　60kg
- ③阿波カリン　60kg
- ④てつりん　200kg
- ⑤ケイカル　200kg
- ＋BMリンスター　60kg

①～⑤のうちいずれかを施用する。

施肥例（10aあたり）

基肥一発（穂肥いらず）				
ニューイネ完ちゃんN17	(17－14－16)	普通田	30～60kg・野菜跡	0～30kg　追肥・穂肥の必要なし
あきさかり専用水稲一発肥料N18	(18－14－16)	普通田	30～60kg・野菜跡	0～30kg　追肥・穂肥の必要なし
ミネラス入JA水稲一発肥料N21〈15kg袋〉	(21－10－12)	普通田	30～60kg・野菜跡	0～30kg　追肥・穂肥の必要なし

品種	基肥 (普通水田)		基肥 (野菜跡等地力の高い田)		燐酸・加里追肥 (出穂35日前頃)	穂肥		
コシヒカリ	BBコシヒカリ	(10－16－14) 20～30kg	BBコシヒカリ2号	(7－10－7) 0～20kg	PK化成2号 (0－20－20) 20kg	BBみのり	(14－8－14)	10～15kg
	高度化成オール16	(16－16－16) 10～20kg				BBNKC52号	(15－0－20)	10～15kg
キヌヒカリ	高度化成オール16	(16－16－16) 20～30kg	BBコシヒカリ2号	(7－10－7) 0～30kg		BBみのり	(14－8－14)	10～20kg
	高度化成オール14	(14－14－14) 25～35kg				BBNKC52号	(15－0－20)	10～20kg
あきさかり	高度化成オール16	(16－16－16) 20～30kg	BBコシヒカリ2号	(7－10－7) 0～30kg		BBみのり	(14－8－14)	10～15kg
	高度化成オール14	(14－14－14) 25～35kg				BBNKC52号	(15－0－20)	10～20kg

鳴門藍住地区農業生活指導班
阿波吉野川農業指導班監修

防除等の情報　病害虫発生状況、発生予報、防除方法等をお知らせしています。
◆徳島県病害虫防除所ホームページアドレス
https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosho/

JAグループ
JA | JA全農とくしま

(2022.11.3,140)